

市民参画と協働の為の情報共有の取組実績調査表

資料2 西区
H26.10.16

【河内まちづくり交流室】検証対象事業名及び概要、目的など

細事業名	概 要
西区まちづくり推進経費 華ある歴史探訪ウォーキング開催事業	西区の魅力の再発見及び区民の健康増進を目的に、豊かな自然や息づく歴史・文化を巡るウォーキング大会を実施する。 本事業は上記目的に沿い、楽しさあふれるまちづくりを推進するとともに、みかんの里河内を町内外に紹介することを目的とした。なお、2009年度まで河内町体育協会主催で開催され、その後中止された本事業(当時はオレンジウオークinかわち の名称)を再立ち上げし、地域活性化の一大イベントとして開催するには、過去の実施経験も含め地元の協力が不可欠なため、自治協議会へ説明と理解を求めた。結果、地元による実施組織として実行委員会を立ち上げた。(別紙資料①)

1 検証対象事業の参画・協働の取組実績(検証のチェックシート①)

参画・協働 の取組・説明	参画	実行委員会の委員(各種団体の長)として、開催目的を達成するための事項について、提案・協議を行う。(別紙資料②) みかん収穫期との兼ね合いもあり、開催日程・おもてなしの内容の他、過去の経験を踏まえたコース案や協力可能なスタッフ数(及び確保)、協賛内容などの実施可能な提案を頂いた。
	協働	地域団体、事業者との共催によりウォークラリーを実施。行政側は西区まちづくり推進員が、当事業の各役割の責任者的な立場となった。(別紙資料③④) 参画の説明でも記述したことを踏まえ、安全面からは交通指導員、みかん狩りではみかん農家の指導・監視、ポイントポイントには体育協会、協賛では漁協・農協・商工会などによる特産物コーナー出店等など、それぞれの立場で各団体をメインとする無理をしない(させない)、できる範囲での地元の協力が必要であった。ラリー用にみかん畑の一角も快く貸し出していただいた。

2 検証対象事業の情報共有の取組実績(検証のチェックシート②)

情報発信の時期	＜大会参加者への情報発信＞ 9月18日の公民館社教主事会を皮切りに、チラシ・ポスターの掲示依頼を順次開始し、9月22日にはほぼ完了した。(別紙資料⑤～⑧) ＜大会スタッフへの情報発信＞ H25年5月25日の河内校区自治協議会にて、本事業の概要を説明した。その後、実行委員会設立準備会議等を経て、8月27日の第1回実行委員会で大まかな実施内容を協議了承した。実行委員会は自治協議会加盟団体の長を中心としてスタッフも兼ねるため、実行委員会がスタッフへの情報発信・共有の場となった。
活用した情報媒体	＜大会参加者への情報発信＞ チラシ、ポスターを中心に、市政だより、かわちだよりなどの広報紙、テレビ、ラジオなどの各種媒体を活用。(別紙資料⑤～⑧) ＜大会スタッフへの情報発信＞ 発信の時期でも記述したとおり、実行委員会が情報発信・共有の場となった。 また、別紙、広報活動のとおり、地元への広報活動も大会参加者への情報発信と平行して行った。特に、⑦「かわちだより」や地域折込紙「熊日オレンジタイム」は地元への情報の浸透に効果的であった。
対象者の興味関心を引くための工夫	＜大会参加者＞ ・参加賞(みかん約2 ^{キロ})の他、おもてなしとして昼食(だご汁＆おにぎり)を振舞った。 ・委員会での提案から、みかん狩りなど、参加者が楽しめる内容を盛り込んだ。 ＜大会スタッフ＞ ウォークラリー再開へ向けて、まず、永年校区自治協議会をまとめられている会長のご理解とご協力を得るため2～3度説明に伺った。過去に中止になった経緯もあったが、「行政と地域がそれぞれの立場で一つになり市民参画・協働としての事業と受け止め、この事業を地域活性化に役立てたい」との方向で、各団体へ説明頂き意見を取りまとめていただいた。
事業の目的や内容について、対象者の理解を深めるための工夫や取り組み	各地域担当として職員10数人からなるチームを編成し、地域づくりへ膝を交えた話し合いをした。 当事業は、西区まちづくり推進体制の中では「金峰山系エリア」に位置づけられ、12名の担当者で構成された。6月から開催まで7回の推進員会議を開き、内容の検討を行った。3回開催した実行委員会前他、各役割毎に随時開催した。
事業の目的や必要性が、対象者に浸透していると思われるか	＜大会参加者＞ 参加者を対象としたアンケート調査(別紙資料⑨)の結果において、内容にも満足したという意見が大勢を占めた。 ＜大会スタッフ＞ 準備の段階で、みかん狩りなどの地域性を生かした企画、だご汁などの昼食のふるまい、閉会式でのジュース早飲みのゲーム案など、実行委員(住民側)からの積極的な提案があった。大会当日は100名ほどの周辺住民が参加した。また、実行委員会では、各団体から参加したスタッフの意向を聞き取り、次回以降の開催に向けての要望を聞き取り、実行委員会にて検討した。

3 細事業における、市民参画・協働による効果について(検証のチェックシート③)

職員が地域活性化を手伝っているということを実感することでやりがいを感じ、地域の方々も開催終了までのスムーズな進行はもちろん、お土産の提供・昼食の段取り等に積極的に関わっていただいた。ご協力いただいた方の人数は、前記スタッフ分担表のとおりであるが、この他にも様々な形でご協力を得られ、ラリー参加者に満足していただくことが出来た。

(別添、⑩熊日紙面＆⑪職員と地域住民の準備スナップ)